

---

## スフィアプロジェクトに基づいた2014年広島土砂災害における避難所環境に関する考察

(高田洋介ほか、日本集団災害医学会誌 22: 48-56, 2017)

2017年12月1日、災害医学抄読会 <http://plaza.umin.ac.jp/~GHDNet/circle/>

---

この研究は、2014年8月19日夜から20日明け方にかけて降った雨による、広島市を中心とした大規模土砂災害についてのものである。2014年9月10日に避難者数が多い主要な避難所を訪問することで、発災から3週間経過した避難所の実態を把握し、我が国における避難所対策の課題検討を目的として実施した。なお、このデータ評価は、人道支援の最低基準を国際的に定めたスフィアプロジェクトの視点で行っている。スフィアプロジェクトとは、①被災者には尊厳ある生活を営む権利があり、また援助を受ける権利がある、②災害や紛争による苦痛を軽減するために実行可能なあらゆる手段が尽くされるべきであるという信念を原理に置いた基準となっている。

今回の土砂災害では11避難所が開設され、そのうち9か所は小学校を活用していた。避難者はピーク時に2354人であったが、8月30日時点で約1100人まで半減した。また、自治体や民間施設による公営住宅、旅館、ホテルなどを利用した二次避難が開始されたため、9月10日には体育館での避難者数は数名～十数名規模にまで減少・縮小した。

今回の災害での避難所は、我が国の多くの自治体が標準としているものであり、ここから我が国の多くの自治体が抱える問題が推論できる。

課題の1つとして、床での雑魚寝が挙げられる。これは深部静脈血栓症のリスクを高め、ひいては肺塞栓による死亡リスクが高まることを意味する。これらを含む住民の健康を考慮した対策として、72時間を超えて避難所開設する見込みがあるときは、速やかに簡易ベッドを導入するべきである。

仮設トイレの設置に関しては、男女の共同使用がみられたり、男性用女性用の区別はあっても隣接していたり、便器が和式であるといった問題が見受けられ、改善の余地があった。また、指定避難所は多様な避難者が生活することを念頭に、平時から多機能型トイレを備えておく必要があると考える。

食料供給の課題として、災害初期はパンやおにぎりなど炭水化物に偏り熱量も不十分になる傾向がある。次第に仕出し弁当等で熱量を確保できるようになるが、野菜が不足しがちで、便秘になりやすく、高ナトリウムの食料による高血圧の悪化が課題として挙げられる。今回は最大限の努力がなされていたが、栄養バランスのとれた食料提供について行政栄養士と連携して検討すべきと考える。

幼児や高齢者、妊産婦や高齢者といった脆弱性が高い集団に配慮した支援が必要とされるが、トイレや着替えスペースの不足など、個別性に配慮した対応には改善の余地があった。

これらをまとめると、現状の避難所環境について、自治体が行う支援には権利保護に基づいた合理的な配慮をする上での改善の余地があるといえる。